

年中児の音環境についての探索的研究

—年中児と保育者の音に関する発話に着目して—

千田 恭子

Research on sound surroundings around children

—Focus on the words of sound by children and childcare person—

Kyouko SENDA

E-mail: senda@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：表現，発話，環境，音

keywords: expression, surroundings, environment, sound

I はじめに

幼稚園教育要領，領域「表現」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」とあり，また，「生活の中でイメージを豊かにし，さまざまな表現を楽しむ」ということが，そのねらいに書かれている。さらに，その内容として以下の8項目が挙げられている。1) 生活の中で様々な音，色，形，手触り，動きなどに気付いたり，楽しんだりする。2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ，イメージを豊にする。3) 様々な出来事の中で，感動したことを伝え合う楽しさを味わう。4) 感じたこと，考えたことなどを音や動きなどで表現したり，自由にかいたり，つくったりする。5) いろいろな素材に親しみ，工夫して遊ぶ。6) 音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。7) かいたり，つくったりすることを楽しみ，遊びに使ったり，飾ったりする。8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりする楽しさを味わう。以上のことから，子ども達が自分で表現する力を養う為には，日常生活と表現の関係を密接にするような環境作りが必要であると言えるだろう。

幼児期の子どもの日常生活は「あそび」で占められていると言っても過言ではない。制作をしているとき，共同で何かを行うとき等，その全てが遊びに基づいている。「あそび」を通して身体や運動能力，知的能力，感性等の発達が進められるのである。また，板野(1982)は，リトミック教育の創案者であるエミール・ジャック・ダルクローズ(スイス／

1865～1950)が，幼児期は「頭脳と身体が平行して成長しており，頭脳は印象や感情を恒常的に身体に伝える時期」であると考えており，それゆえ，「技術的な教育を進める以前に，感覚的な教育をすすめ，音楽に対する敏感な感受性を養うこと」を柱としたと書いている。

それでは，子どもの感性を養うにはどのようにすればよいのだろうか。保育者であれば誰でも気付いていることであるが，子ども達の活動には「音」や「リズム」が身近に存在している。歩きながらハミングしていたり，会話する言葉にメロディを付けていたりするのである。しかも，そのメロディは聞き覚えのある物ばかりではなく，子ども自身が勝手に作っている場合もある。また，旋律に直接結びつかないまでも，発話にリズムが感じられ，身体の動きを伴っていることが多い。一方，自然や生活環境から得る音も忘れてはならない。雨や水の音，風の音，乗り物の動く音，動物の鳴き声，物を叩く音などである。これらを表現するとき，子どもは往々にして擬音を用いて発話する。このような子ども独特の自由な音楽表現を育て，音に対する感性や表現力を伸ばしていくためには，どのような保育の在り方が必要かを保育者は考えていく必要があるのだろう。

その為には，まず，幼児がどのような状況でどのような音環境をつくり出しているのか，また，どのような発話をしているかを確認し，その育ちにおいて，幼稚園の音環境がどのような意味を持っているのか，幼児にとって音とは何なのかを明確にする必要がある。そこで，これらのことを明らかにするために，幼児と保育者の行動と発話を観察し，分析す

ることとした。本稿では、状況・行動・発話に注目して観察した結果を報告する。分析の視点は、どのような場面で音楽的要素が含まれた発話及び擬音語・歌・鼻歌等を発するかである。

II 方法

2010年10月から2011年2月に調査者がT県内の幼稚園を訪問し、自由保育の時間における年中児を観察しながら年中児と保育者による音に関する発話を以下の点に注目して記録した。

- ・年中児と保育者による発話及び擬音語等にテンポ、リズム、高低、強弱等が感じられるか。
- ・年中児と保育者が音に関する発話及び歌、鼻歌等をどのような場面で発するか。
- ・観察時間は各回約1時間。A組9回、B組13回。対象を年中児にしたのは、会話が成立する年齢であること、年長児になった時の比較が可能であること等である。

III 結果

自由保育の時間を観察時間としたため、教室内に

いる子どもが、ある程度同じになってしまったことが残念であるが、観察の結果から、年中児と保育者による発話を、その特徴によって、以下の5つのカテゴリーに分類した。

1. 擬音・擬態語・効果音等(表1)

車の音(ブーブー)・カメラのシャッター音(カシャカシャ)等や花火の音(バンバン)・机をたたく音(タンタン)・銃を撃つ音(ダーン)等の発話は、子どもたちの生活環境に存在する音を、場面に応じて使用していると思われる。自分で作ったものや室内にあるおもちゃで遊ぶ時、それらを見たことがあるものに見立て、聞き覚えのある音を口で表現していると言える。自分の動作に合った音又は効果音:廻る(ぐるぐる)・こねる(ぎゅ〜)・たたく(ぼんぼん)・とびおる(ジャポーン)等に関しては身体で表現していることや、動くことによって生じる音を表現している。これも子どもたちの経験から自然に口に出るのだろう。また、保育者がこれらの言葉を発話する場合は短い単語を繰り返すため、子どもが理解しやすいという理由もあると思われる。

表1 擬音・擬態語・効果音等

発 語	状 況	備 考
「ブー ブー プシュー」	作った物の効果音として	
「ブー」「ガチッ」	ブロックを並べながら	
「カシャ カシャ」	カメラを撮りながら	
「ブーン」	ハエの音+手の動き	
「バン バン バン バン」	銃でゆうとを撃つ	
「ぐい〜ん」	積み木の片付けをしながら	
「にゃんにゃんにゃん」	二人でじゃれながら	
「ジャワワワー」	雨を降らせる動作をしながら	
「ギュッ ギュッ」	ままとで粘土を扱いながら	
「タン タン タン」	机をたたきながら	
「チクチク」「チクン」	名札の安全ピンの注意をしながら	「痛そうな音」というコメント有り
「ピッ ピッ」「ゴシ ゴシ ゴシ ゴシ キュッ」キュッ キュッ」	消毒をしながら	
「コネコネ」「モチモチ」	さつまいもパンの説明をしながら	
「ちゅ〜」	油を入れながら	約8度の音程をグリッサンドしながら発話
「モミ モミ」	材料をこねるまねをしながら	
「ムニ〜」	こねすぎて、入れたさつまいもがつぶれないように注意しながら	
「ぐるぐるぐるぐる」	おもちゃで遊びながら	
「ポッポー ポッポー」	回りながら	
「ピー ぴー ぴー」	おもちゃをたたきながら	
「ウー カンカンカン」	おもちゃで遊びながら	

発 語	状 況	備 考	
「ブー ブー ブシュー」	作った物の効果音として		
「ブー」「ガチッ」	ブロックを並べながら		
「カシャ カシャ」	カメラを撮りながら		
「ブーン」	ハエの音+手の動き		
「バン バン バン バン」	銃でゆうとを撃つ		
「ぐい～ん」	積み木の片付けをしながら		
「にゃんにゃんにゃん」	二人でじゃれながら		
「ジャワワワー」	雨を降らせる動作をしながら		
「ギュッ ギュッ」	ままごとで粘土を扱いながら		
「タン タン タン」	机をたたきながら		
「チクチク」「チクン」	名札の安全ピンの注意をしながら	「痛そうな音」というコメント有り	
「カチャカチャ」	暖房器具のスイッチをさわるときの表現		
「メラメラ メラメラ」	火事で日が燃え上がるときの表現		
「きゅいーん きゅいーん」	ブロック同士をぶつけながら		
「ピロン」	空のアイスクリームカップを落としたとき		
「くる くる くる」	回りながら		
「ホイ ホイ」	マントをはたきながら		
「ホーイ」	マントを脱ぎながら		
「シュ～ウ」	作った物を床で滑らせながら		
「べちん」	人をたたくときの表現として		隊長になれる人は？の質問に答えて
「ぼんぼんぼん」	ポンポンを持って振りながら		
「パンパンパンパンパン」	飛び跳ねながら右手で花火がひらくのを表現しながら	玄関の電気か点滅していたのを花火のようだと感じて	
「ひゅい～」	ブロックを持って走りながら		
「びゅ～！」	積み木の上に乗ってポーズをとりながら		
「ぶ～ん！」	積み木の上に乗ってポーズをとりながら		
「ぶーん ぶーん」	積み木の上で手を振り回しながら	そのまま同じ言葉を走りながら言う	
「キラ キラ キラ」	制作したスティックを振って足踏みしながら		
「パッパッパッパッパッ」	歩きながら		
「キュルキュルキュルキュルキュル」	飛びながら		
「き～ん！」	組み立てたブロックを飛行機に見立てて		
「ポンポンポン」	スコップで雪をたたきながら		
「バン バン バーン」	ブロックで作成した銃を撃ち合いながら		

2. リズム付きの言葉（表2）

表1の擬音・擬態語・効果音・かけ声にもリズムを感じられたが、それとは異なり、発語そのものにあきらかにリズム感が存在する。「チャンチャンチャン」「はけないよ～」「い～れ～て」「い～い～よ」等、自分が興味を持ったことを強調する場合や、自分に注目を集めたいような時に会話の途中で発する場面が見られる。さらに、発語に行動を伴う場合は発語することによって行動にリズム感を持たせているように感じる。また、かけ声（応援・カウ

ントダウン・おまじない・動作の励みになるような声等）は単独で発話する場合もあるが、その時はリズムを感じる言葉ではなく、むしろ叫び声に近い。リズムや音の高低を感じるのは概ね数人で一緒に発話する時である。何かの行動を同時に起こす時や気持ちいを合わせる時には、呼吸とリズムが不可欠だといえるだろう。そして、これらの状況が幼稚園教育要領の「言葉」「人間関係」に関係することにも注目すべきだと考える。

表2 リズム付きの言葉

発 語	状 況	備 考
	かぶと虫で友達をおどかし、歩きながら	足のスピードと言葉のテンポが同じ
「ぎんばんぎんばん」	積み木のバイキンマン号の周りを歩きながら	
「がんばれ～」	先生と一緒に音楽に合わせて手を挙げて	
「うさぎになーれ (×3)」	ウサギを折り紙で作りながら	
「ちんちん おし〜っこ」		
「チャンチャンチャン」	作った髪飾り(?)を頭に付けて	
「ブリー ブリー (うんちが)」	ロボットみたいにリズムをとって、大型積み木の家の中に座って	
「男が8人, 男が8人」とリズムを付けて言った		
「ワン ツー スリー ドーン」	話をする途中で意気投合して (2回繰り返す)	
「???	タンタンタン タンタンのリズムに合わせて歩きながら	足のスピードと言葉のテンポが同じ
「???	歩きながら	タンタンタン タンタンのリズムに合わせて。足のスピードと言葉のテンポが同じ
「わっせ わっせ」	積み木を運びながら	
「あー か しー ろ」	飛び跳ねながら	タータ タータ のリズムに合わせて。
「にゃー にゃー にゃ にゃ にゃ にゃ」	走りながら	歩調は言葉と合っている
「フーフー ふーふー フフフフ」		
「せき コンコン (×2)」	マスクを指さして	
「とおる とおる でんしゃ でんしゃ」	エプロンに付いている電車を見て	
「オー」	走りながら	
「がんばって〜!」	先生が粉をこねるのを応援しながら	
「がんばーれ!」		
「がんばーれ!」	先生が牛乳をボールに入れるのを応援しながら	リズムは前回と同じ。足でリズムを取りながら机をたたいている子有り
「モーミ モーミ」	空の皿でまねしながら	
「ギュッ ギュッ」	それぞれ自分の分の粉をこねながら	タンタンタンのリズムに乗って。
「ぎゅ〜 ぎゅ〜」		ターン ターンのリズムに合わせて
「モーミ モーミ」「いーち にーい・・・」	それぞれ自分の分の粉をこねながら	ターンタン ターンタンのリズムに合わせて
「おいしくなーれ」		タンタンタンタンのリズムに合わせて
「コーロ コーロ コーロ コーロ」	パンを丸めながら	
「フォ フォ フォ フォ」	自分の材料を焼こうと運んできたときと、席に帰るとき	言葉と歩調が合っている
「ダイエット ダイエット」	話の途中でダイエットという言葉が出たのを受けて	タタタンタンのリズムになっている
「キラ キラの モール ください」	飛び跳ねながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「はーい ほしい でーす」	手をあげながら	友達の「モールでつくった指輪をほしいひと」という質問に答えて。言葉の句切りで一拍ずつになっている
「ちょう だい ちょう だい」	指輪を欲しいとBを追いかけて	言葉の句切りで一拍ずつになっている、歩調が言葉に合っている

年中児の音環境についての探索的研究

発 語	状 況	備 考
「エイ エイ エイ」	作った魔法のスティックを振ってとびながら	
「ねずみ ねずみ ねずみ」	友達の「ねずみ いや～」の言葉を受けて	タタタン タタタン タンタンタンのリズム。最後だけ音程差がついている
「ねずみ ねずみ ねずみ」	かけあしふみをしながら	タタタン タタタン タタタンのリズム
「よいしょ よいしょ」	歩きながら	
「ネ コ ネ コ」	「どらえもん」の話をした後すぐ	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「ぶ～ らん こ」「せーのー びょん」「まっ すぐ びょん」	縄跳びの練習をしている A にアドヴァイスをしながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「大 丈 夫」	トイレをすませた後、「シャツは大丈夫かな？」の先生の言葉に答えて	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「きもい きもい きもきもい」	自分にキスしようとした友達に反応して走りながら	タタタン タタタン タタタタンのリズム。走るリズムは4分音符単位
「グー チョキ パー」	飛び跳ねながら	
「オナラ オナラ オナオナラ～」	工作をしながら	タタタン タタタン タタタタンのリズム
「はけないよ～ はけないよ～」	果物の保護材を足にはめながら	タッタ タッタ タンのリズム
「4秒 3秒 2秒 1秒 ドッカ～」	友達の「5秒」という言葉に反応して	
「カーブ カーブ カーブ」	「食べるまねをしながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「にんじんと 大根と オレンジ」	空き箱に物を入れるふりをして	物の名前を言うときに箱をたたきながら
「いーれーて」	遊びの仲間に入ろうとして	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「いーいーよ」	遊びに入れてほしいとの言葉に答えて	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「ぼんぼんぼん」	ぬいぐるみのクマを抱いて歩きながら	歩調と言葉が合っている
「イチ ニイ、イチ ニイ、イチ ニイ」	歩きながら	「イチ ニイ」といった後に2拍休符が入って、4拍子のリズムになっている
「イチ ニイ サン、イチ ニイ サン、イチ ニイ サン」	走りながら	「イチ ニイ サン」といった後に1拍休符が入って、4拍子のリズムになっている
「キュッ キュッ キュッ」	作ったブロックを持って回りながら	発語するときに持ったブロックをひねっている
「ちゃんちゃ ちゃんちゃ ちゃん」	歩きながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「かーわ かーわ」	ボンボンと足を壁につけながら	
「ピッピッ ピッピッ」	歩きながら	ピッピッの後に2拍休符が入る 全体として4拍子で、テンポに合わせて歩く
「いたい いたい いたい よ」	片足で跳びながら	左足を何かにつけたらしい 言葉の句切りで一拍ずつになっている
「わっせ わっせ わっせ」	積み木を運びながら	
「すべってころんで らんらんらん」	積み木を運びながら	身振り付
「うんち ぶりぶり ソーセージ」	積み木で遊びながら	
「うんち ぶりぶり らんらんらん」	積み木で遊びながら	友達の台詞をうけて
「えい ほ えい ほ」	積み木を運びながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「えっさっさ えっさっさ えっさえっさ えっさっさ」	走るまねをしながら	3・3・7拍子のリズム
「ほい ほい ほい」	積み木の上を歩きながら	
「しゅり けん」	手裏剣を投げるまねをしながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「わっせ わっせ」	飛び跳ねながら	
「いえーい いえーい」	飛び跳ねながら	
「わっしょい わっしょい」	飛び跳ねながら	
「いえい いえい いえい」	踊りながら	
「いえーい いえーい」	制作したスティックを振って足踏みしながら	
「ないしょ ないしょ ないしょ」	内緒話をしたあとで顔を見合わせながら	
「せ ん せ い」	折り紙を先生のところに取りに行きながら	言葉に合わせて一歩ずつ歩きながら

発 語	状 況	備 考
「よいしょ」「おう！」	雪かきしながら	
「オー ノー ノー 行っちゃダメ」	変な方向に飛んでいったコマを追いかけて	ターン タン タン タンタタタン のリズムに合わせて
「パッパパーパラパー」	フープをまわしながら	タッタータタター のリズムで
「い い の！」	「の」でジャンプしながら3回くりかえす	言葉の句切りで一拍ずつになっている。「の」にはアクセントがついている
「おつむ てん てん ぼん ぼん ぼん」	自分の頭をたたきながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている。「おつむ」は3連符
「やだ やだ やだー ぜったい やだー」	椅子とぶつかるのを避けて走りながら	タンタンターン のリズムで
「ステージ ステージ」	椅子を出す間の待機所である積み木のステージに向かいながら	タタタタのリズムで
「おーい おーい きこえるか～？♪」「きっこえませ～ん！」	ペットボトルを電話の受話器に見立てて(×10)	言葉に付点のリズムを入れている。

3. オーディオやBGM, 楽器を用いたもの(表3)

子どもは好きな曲に対して、かなり鋭い聴覚を持っていると感じた。音楽をただ聴いている時もあるが、他の遊びに熱中していても、知っている曲や好きな曲が流れてくると、その曲に合わせて動作をしたり、歌ったり、楽器をならしたりする場面がよく見られ

た。また、自分が発語する際に楽器を使用することもあった。これは、言葉の内容に対する効果音として利用したと考えられる。

流れてくる音楽に合わせて何らかの表現をする時、最初は個人的であっても、時間がたつと何人かで集まって表現する場合もあった。

表3 オーディオやBGM 楽器を用いたもの

発 語	状 況	備 考
	プレーヤーの前において音楽を聴く	CDのイントロだけ流れて切れたのを聴いて
CDの歌を歌う	踊りながら	
「ドドン ドドン」	CDのタイコのリズムに合わせて	
トライアングルをたたく	CDの「100%勇氣」に合わせて	
トライアングルをたたく		
CDをかける		
「100%勇氣」を歌って踊る	CDの「100%勇氣」に合わせて	
縄跳び	「勇氣100%」のCDに合わせて飛ぶ	
「もういきますよー」	トライアングルを鳴らして	宇宙船が出る様子
「??？」	カスタネットをたたきながら歩き回る	歌っているようだがよく聞こえない
	カスタネットを耳元でたたく	吉田先生にやさしくたたいて聞かせる
	トライアングルをならす	
	トライアングルをならす	持つ場所が違っていると音が違うことをためす
「はやくしないと出発しませんよ～ はやく乗ってください」	台詞を言ってからトライアングルをならす	
	トライアングルをならして歩く	
	タンバリンをならす	
はたらく車の歌をCDに合わせてうたう		
「いろんなうんち おしっこー」	大型積み木であそびながら	はたらく車の歌に合わせて
「いろんなうんちがー」	大型積み木であそびながら	はたらく車の歌に合わせて

4. 歌・ハミング【自作を含む】(表4)

知っている曲を歌ったり、ハミング等をするのはもちろんだが、勝手に気の向くままメロディをく

ちずさんでいることもあり、曲の全てが既成の曲とは言えない。アニメの主題歌等の知っている曲では、誰か一人が歌い出すと周りで一緒に歌い出す場面が

多く見られた。しかも、単に歌を歌うだけではなく、何らかの行動をしながら歌っていることが多い。そういう子ども達の表情を見ると、歌っている時は明るく楽しそうである。一方、ただの会話になんらかのメロディを付けていることもあり、歌というもの

に既成概念がなく、自由な発想を生み出していると考えられる。しかし、他のカテゴリーとは異なり、歌をくちずさむという行為には個人差があり、歌っている子どもはある程度決まっているように見受けられた。

表4 歌・ハミング（自作を含む）

発 語	状 況	備 考
「変な歌うたってたんだよ」♪	廃材を捜しながら	
「???? (テーマソング?)」	作った物を運びながら	
「???? (テーマソング?)」	廃材を手に持ちながら	
「らんらら」	廃材を手に持ちながら	
鼻歌	タオルを掛けながら	
ハミング	踊りながら	
「らーららー」	イスを持ちながら	
「らーらららー」	廃材をさがしながら	
「はーやとくん ハイどうぞ」♪	タオルの落とし物をわたしながら	
「???? (テーマソング?)」	プリキュアの歌に合わせて歌う、踊る	
「さざえさん」の歌	積み木の上を歩きながら	
友達につられて	モール制作しながら	
「あつまれ ふぁん ふぁん ふぁん」を歌う	折り紙を折りながら	
「で～きた」+鼻歌		
「チョコレートケーキとアイスクリーム♪」(「はらぺこあおむし」のうた)	作業をしながら	
「○○がしっこになっちゃった～♪」×2		
「????♪」	歩きながら	
「中もさんかく～♪」	三角の箱を持って	
「ド ド ドラゴン～♪」	制作しながら	
「変身いますぐ～♪」	制作しながら	友達につられて A も一緒に歌う
「ジャンガ ジャンガ♪」	ジャンプしながら	
お弁当の歌をうたう		
「やっぱりとやまがこいしいと～♪」		「どんぐりころころ」の替え歌
「つくりましょー♪」	大型積み木を運びながら	
しまうまの歌を聴いて口ずさむ	制作しながら	先週、友達がしまうまを作りながらしまうまの歌をうたった
「チョコレート チョコレート チョコレートはめいじ♪」	作業をしながら	
「○○パスタ ××」♪	ラップの芯で遊びながら。踊りながら。歩きながら。	タンタンタッタタン ターンターン のリズムに合わせて。歌詞は毎回異なっている。
鼻歌	積み木を取りに行きながら	
「????」♪	シールを取りに行きながら	
「????」♪	積み木の上に立って歌手のまねをしながら	
「ルルルル～」♪	ピアノの弾きまねをしながら	
「さんぼ」のメロディーを歌う♪	調理の身支度を取りに行きながら	先生の「歩いて取りに行こう」の言葉を受けて
「ランラ ランラ ラン」♪	身支度を終えて	

発 語	状 況	備 考
「ちっちゃいおもやいて べとべと～」♪	パンを丸めながら	
鼻歌	パンを丸めながら	
「ゲー チョキ パーでなにつくろう♪」	足でじゃんけんの形をつくって跳ねながら	
「ゲー チョキ パーでなにつくろう♪」	友達に合わせて	
「ばんばんばん うちゅうじんが やってくる～♪」(「あつまれファンファンファン」のうた)	工作をしながら	
何かの曲を口ずさんでいる	子どもまつりの練習で踊りながら	
「けっとばせー♪」	空のアイスクリームカップにふたをしながら	
「なみだがひとつ～♪」	人差し指を立てて回し、歩きながら	
「ペー ベベベ ペペー♪」	歩きながら	タータンタン タンタンターのリズム
「???♪」	すわって手を繋ぎながら	
「???♪」	踊りながら	
「らららら ららら らららん らん 結婚式のできるおうち」	積み木を運びながら	その前に友達同士で結婚式という言葉が出ている
「???♪」	作った作品を振りながら	
「???♪」	ブロックを運びながら	
「???♪」	踊りながら	
「???♪」	踊りながら、出席ノートを開きながら	
「は～やくしないと♪」	積み木を並べながら	
「オー レー オレー オレー♪」	ブロックをマイク代わりにして、積み木の上で歌いながら。	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「オー レー オレー オレー♪」	足踏みしながら	言葉の句切りで一拍ずつになっている
「だれのですか～♪」	落とし物のハンカチとティッシュを拾って、足踏みしながら	
「???♪」	踊りながら	
「これでいいでしょう～♪」	片足踏みをしながら	
「ぐるぐる～♪」	まわりながら	
「ブロック ブロッカー♪」	ブロックを片付けながら	シンコペーションのリズムで
「らーららー♪」	椅子を出しながら	
「???♪」	飛び跳ねながら	
「パッカ パッカ 逃げろ♪」	追いかけてくる友達から逃げながら	
「???♪」	足踏みしながら	
「じーちゃん わおー♪」	ブロックで遊びながら	
「〇〇くん 〇〇くん ♪」	ブロックで遊びながら	
「テケ テケ ルルー♪」	足踏みしながら	
「ダメ ダメ ダーメ♪」	マントを着ながら	
「ルル ルル ルル～♪」	積み木をピアノに見立てて弾くまねをしながら	
「ルール ルール ルルル～♪」	積み木をピアノに見立てて弾くまねをしながら	直前と同じだが、付点のリズムになっている
「タラッタ タラッタ ター♪」	積み木を積み上げながら	
「???♪」	歩きながら	
「CC レモン CC レモン♪」	のり付けしながら	
「あかりをつけましょ ぼんぼりに～♪」	おひな様の顔を書き込みながら	友達は1番から最後までしっかり歌い続ける。

発 語	状 況	備 考
「あかりをつけましょ ぼんぼりに〜♪」	「すましがあって どんな顔？」という質問が出た後で	
「いそがないーと いそがないーと〜♪」	マーカーを取りに行った帰りに片足で飛び跳ねながら	
「おだいりさーまと おひなさま〜♪」	冠と烏帽子を貼り付けながら	

IV 考察

以上の観察の結果から、①なぜ効果音や擬音を使用するのか。②なぜリズムのある言葉を多用するのか。③なぜ歌を歌うのか。④なぜ集まって表現するのか。⑤保育中のBGMは有効か否か。といった疑問が生じたので、以下のように考えた。

- ① 大山(1996)は「幼児期の音楽経験は、幼児が自ら自分の生活を取り巻く様々な音や声さらに聞こえてくる音楽に気づき興味や関心を抱くことから始まる」と述べている。このことから解るように、幼児は音楽を音としてだけで捉えているわけではないようだ。すなわち、①に関しては視覚・触覚・聴覚から入った情報を記憶しており、その時々で無意識に記憶をたどって言葉を選択しているのだと考える。
- ② 表2の分析にも書いたことだが、自分が興味を持ったことを強調する場合や、自分に注目を集めたいような時にリズムのある言葉を発すると考えられる。さらに、数人で一緒に発話する時にリズムや音の高低を感じるので、〈友達の注意を自分に向けやすい〉もしくは〈友達との同調がしやすい〉等の感覚が働いているものと思われる。
- ③ これも前述したことだが、歌を歌っている時には幼児の表情が明るく笑い声が聞けることから、気分の高揚感が深く影響していると感じた。特にクラスメイトと何かを作るといった行事のようなことを行う場面では、歌だけでなくリズムカルな言葉が数多く聞くことが出来たことから、その関わりは大きいと考える。一方、歌を歌うことは個人差が激しいことも特徴としてあげられる。彼らの行動から、帰宅した後も音楽もしくは歌が日常的に子どもの周りに存在(両親や兄弟姉妹が音楽好き。ピアノを習っている等)し、音楽そのものに抵抗感が少なく、歌うことそのものが心地よさを伝える手段となっているのではないだろうか。このことから、子どもが歌うか否かは生活環境にも要因の一つが存在するのではないかと考える。

- ④ どのカテゴリーの場合でも言えることだが、発話にリズムを感じる場合、往々にして数人の幼児が集まっていることが多い。これは歌やリズムが友達との同調行動の手段となっているのではないだろうか。同じ行動をしたり同じ発語をする時には、呼吸を合わせたりタイミングを取る必要がある。こういった行動が、友達とのつながりを深めるためのものとして機能していることが考えられる。
- ⑤ BGMを保育中に使用することは園によって考え方が異なると思うが、歌うことやリズムに合わせて身体を動かすことを心地よいと思う子どもにとっては表現の機会を与えるものとして機能していると思われる。それを聞いて、歌やリズムを友達との同調行動の手段とする子どもにとっては、友達とのつながりを深めるためのものとして機能していると思われる。

また、殆どのカテゴリーが出現する際に動作が伴っていることがわかった。つまり、森田等(2001)も言っているように「幼児にとっては、音楽と動きは切り離せないもの」だということが再確認できたわけである。それには〈リズム〉が大きく関係していると考える。木許等(2007)は、子どもの生活全体を大きくとらえることによって音楽のリズムと生活のリズムを同じように感じる必要があると述べているが、幼児が視聴覚からの情報を行動とともに記憶するならば、私達の生活は様々なリズムで構成されていることを知ったうえで保育が重要となる。そして、小池(2009)が保育現場の音楽は「基礎技能の技量に重点を置くよりも寧ろ、保育者自身の音楽的な感受性を振り所にした創造的で音楽的な表現を高めることに力点を置くことが、幼児の音楽的な表現を高めることにより一層つながっていくのではないかと述べているように、幼児の発語や行動から音楽的なリズムを感じ取り、それらを更に音楽的な表現となるような展開をしていかなければならないと

考える。

V 今後の課題

音楽が幼児の育ちに及ぼす影響として、こちよさ・感じたこと・自分の今の感情等を表現する手段であるということ。一方で、幼児の育ちを総合的に支援するものとして、人間関係、言葉、身体の動きを揚げることができる。今後はこれらのことを踏まえた上で、幼児期の音楽教育のカリキュラムや指導法を考えるために、本研究で見出された4つのカテゴリーが、対象児の修了までにどのように変化するのかを明らかにし、幼児の音楽表現の発達の道筋を明らかにする、その後、幼児の音楽表現を促す有効なカリキュラムや指導法のあり方を検討し、音楽表現の発達のモデルを作る。その際には本研究で明らかになったように、保育の他領域の発達との関連も十分に考慮していく。

文献

- 板野 平, 広瀬蓉子, 石丸由理, 長尾満里 1982, 『みんなでやろうリトミック』(株)ひかりのくに
- 木許 隆, 高倉秋子, 高橋一行, 三縄公一 2007, 『保育者のためのリズム遊び』, 音楽之友社
- 小林 満, 川口 豊, 大南 匠, 近藤茂之, 田辺雅彦, 渡辺 康 2006, 『保育学生・保育者のための子どもの音楽提言と子どもの歌60選』, (株)教育芸術社
- 小池美知子 2009, 『保育者の音楽的感受性が幼児の音楽表現に及ぼす影響』, 保育学研究, 第47巻, 第2号, 60-69
- 森田百合子, 山本金雄, 山本 敬, 秋山 衛 2001, 『幼児の音楽教育』, (株)教育芸術社
- 大山美和子 1996, 『幼児の音楽表現に関する保育的意味について』, 清和女史短期大学紀要, 第25号, 103-110

(2011年5月19日受付)

(2011年7月20日受理)